

2020年3月期 決算説明会資料

目次

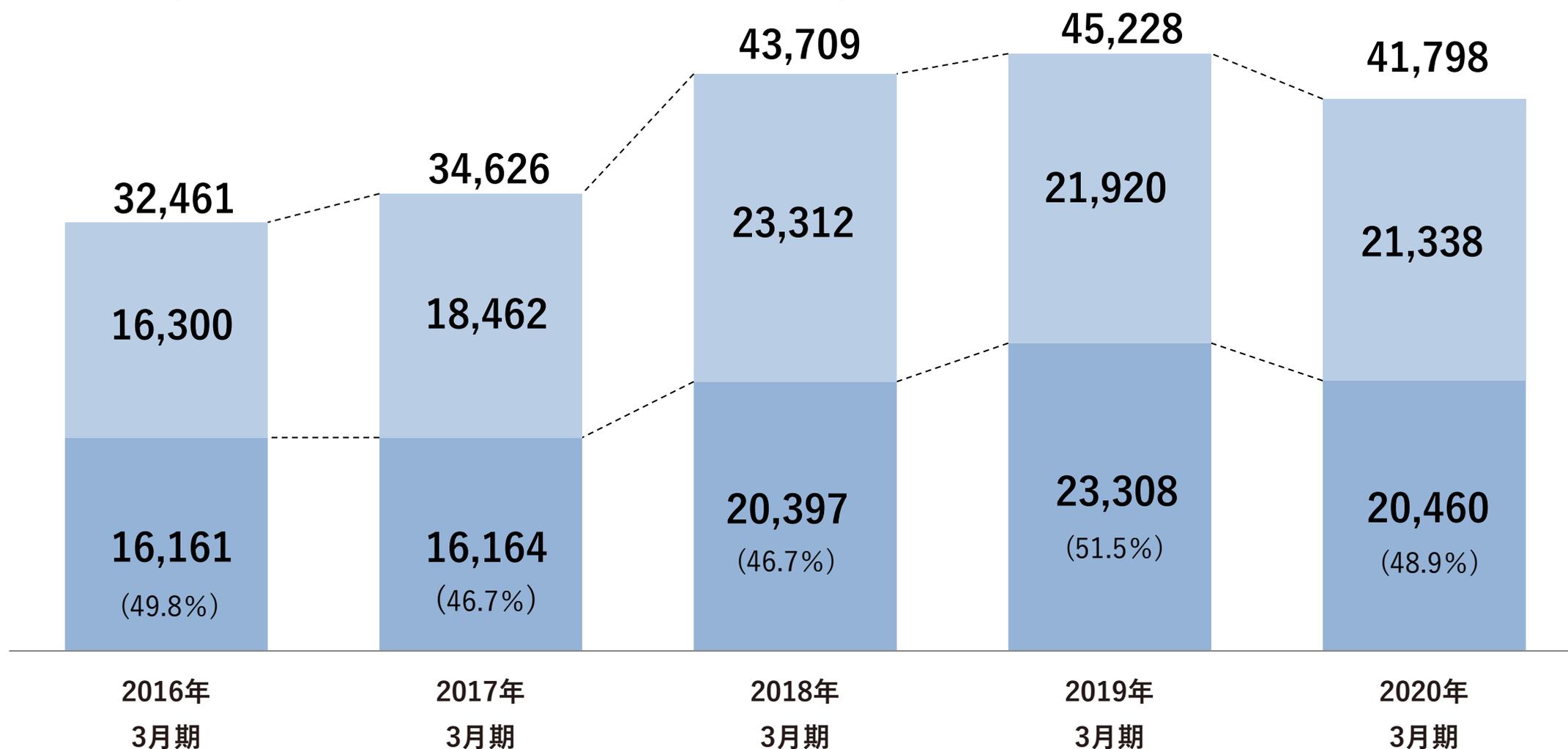
1.	【連結】業績推移	2頁
2.	【連結】販売の状況	6頁
3.	【連結】損益の状況	7頁
4.	【連結】貸借対照表	8頁
5.	【連結】キャッシュ・フロー	9頁
6.	2020年3月期のトピック	10頁
7.	事業環境	11頁
8.	対処すべき課題と進捗	14頁
9.	2021年3月期【連結】業績予想	19頁
10.	株主還元	20頁
11.	新型コロナウイルスの弊社事業に対する影響	21頁

1. 【連結】業績推移（1）直近の売上高推移

売上高は前期比 7.6% 減少

- ◆ 半導体製造装置業界は、第4四半期に5G需要等で若干回復するも、通期では需要が低迷した
- ◆ 工作機械製造業界も内需及び外需ともに減速した
- ◆ 地金相場の影響による販売単価下落と販売量の減少が影響した

単位：百万円



※下段 ■ が上半期実績 () 内は通期に対する占有率、上段 ■ が下半期実績を示す。

あたらしい、を、素材から。

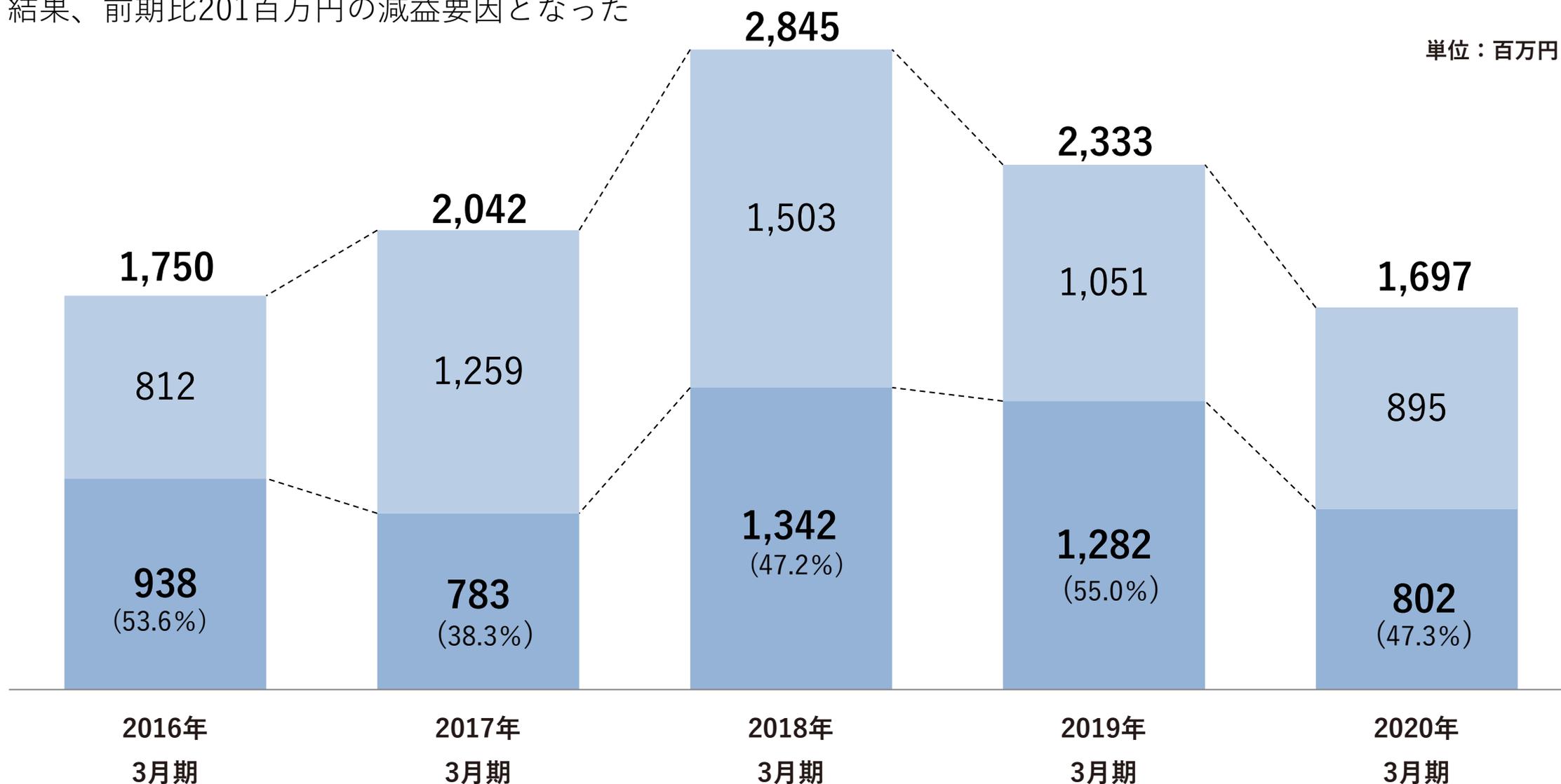


1. 【連結】業績推移（2）直近の経常利益推移

経常利益は前期比 27.3% 減少

◆ 商品在庫に係わる相場差損が170百万円発生した（前期は相場差益31百万円）

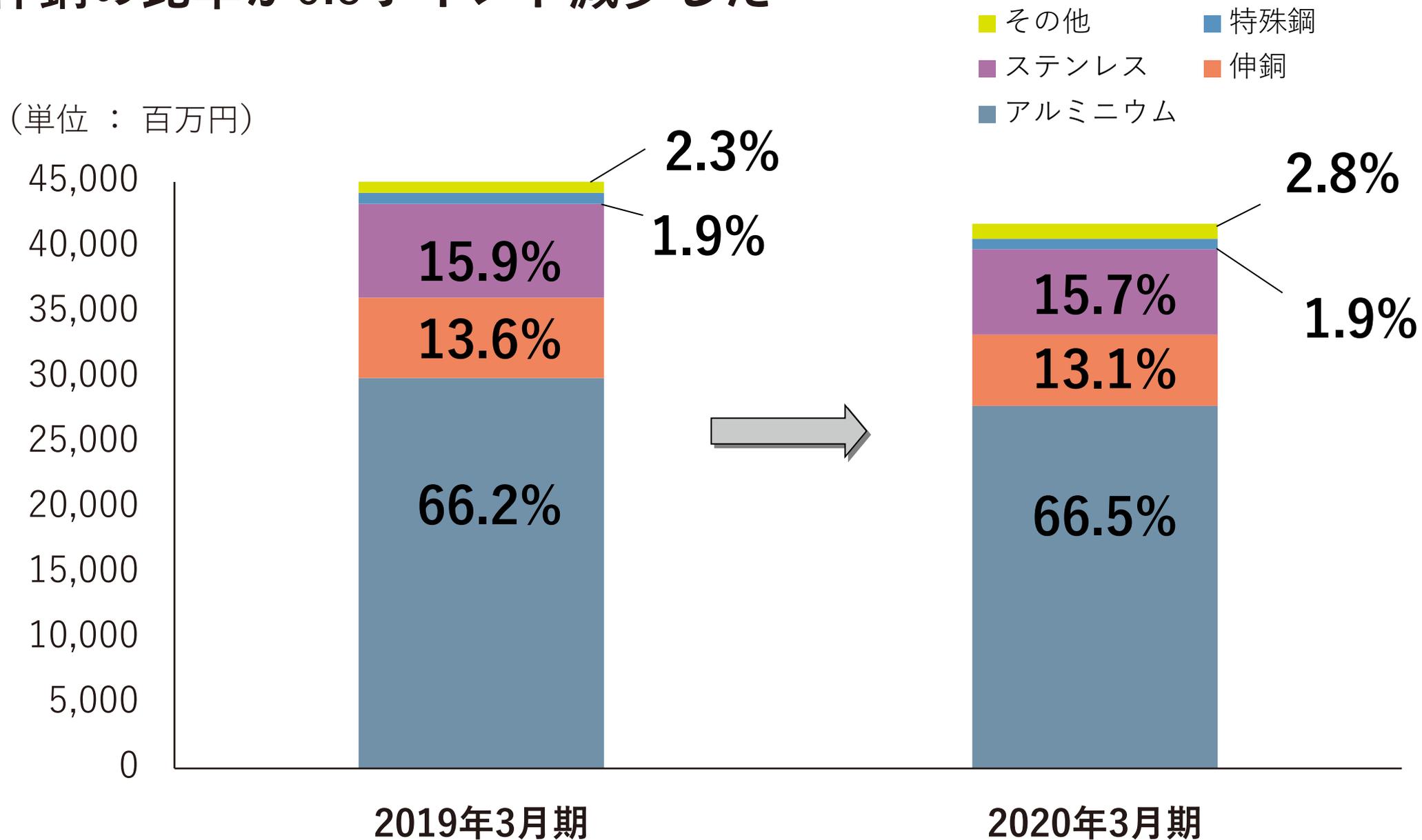
◆ 結果、前期比201百万円の減益要因となった



※下段 ■ が上半期実績（）内は通期に対する占有率、上段 ■ が下半期実績を示す。

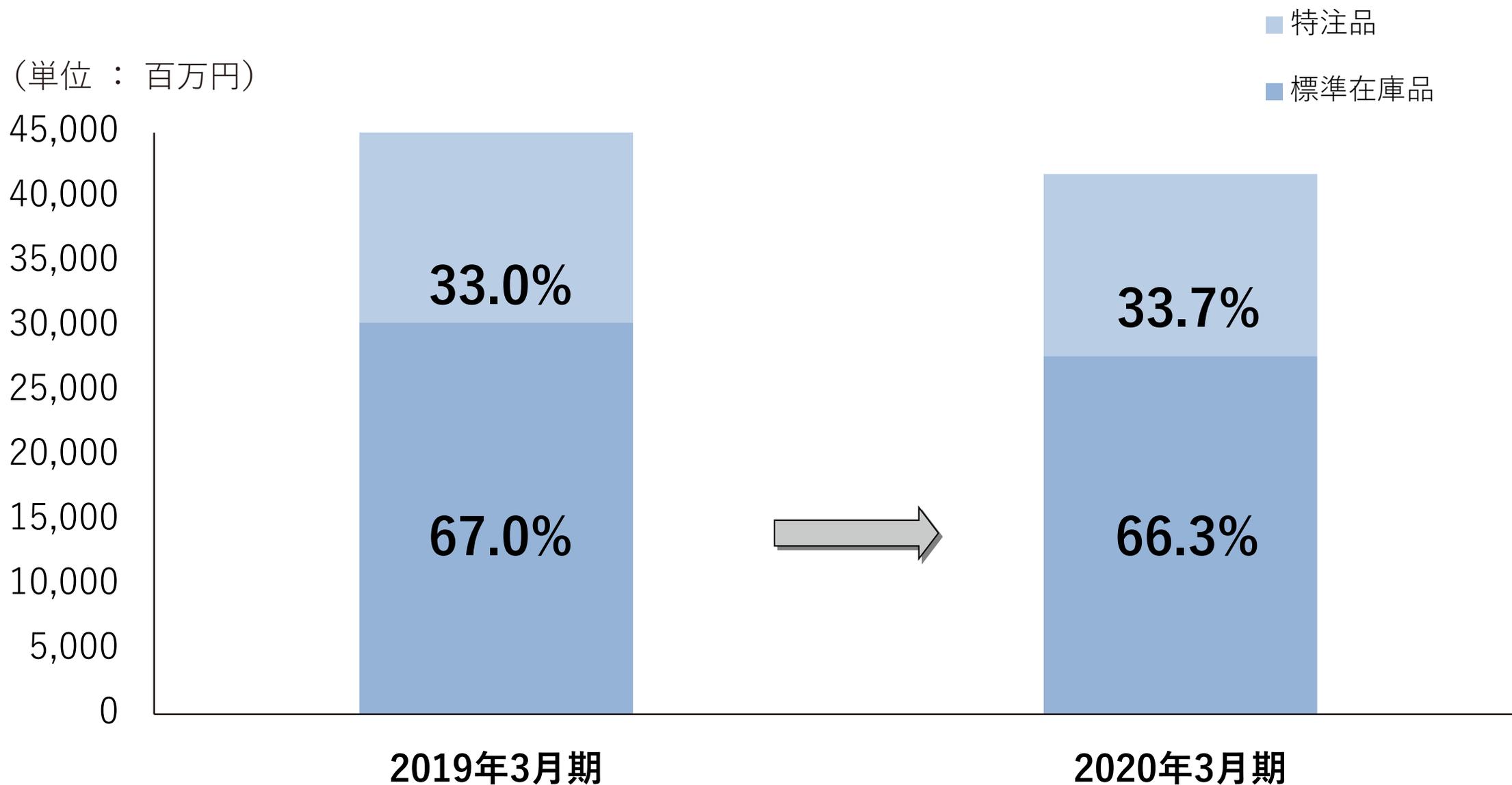
1. 【連結】業績推移（3）売上高の構成比率（品種別）

前期比で主力のアルミニウム製品の比率が0.3ポイント増加し伸銅の比率が0.5ポイント減少した



1. 【連結】業績推移（4）売上高の構成比率（標準在庫品・特注品別）

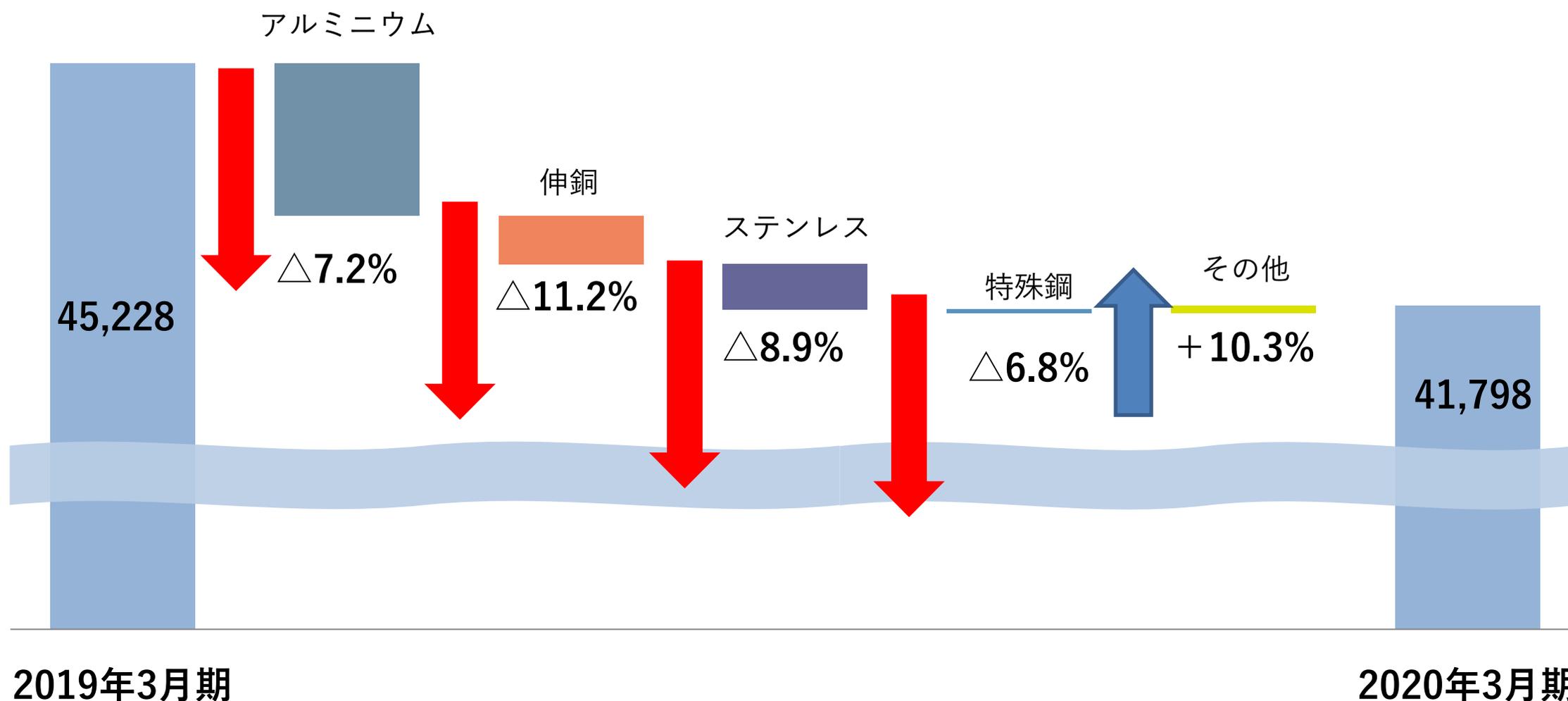
前期比で標準在庫品売上高の比率が0.7ポイント減少



2. 【連結】販売の状況 前期と比較した売上高変動内訳（品種別）

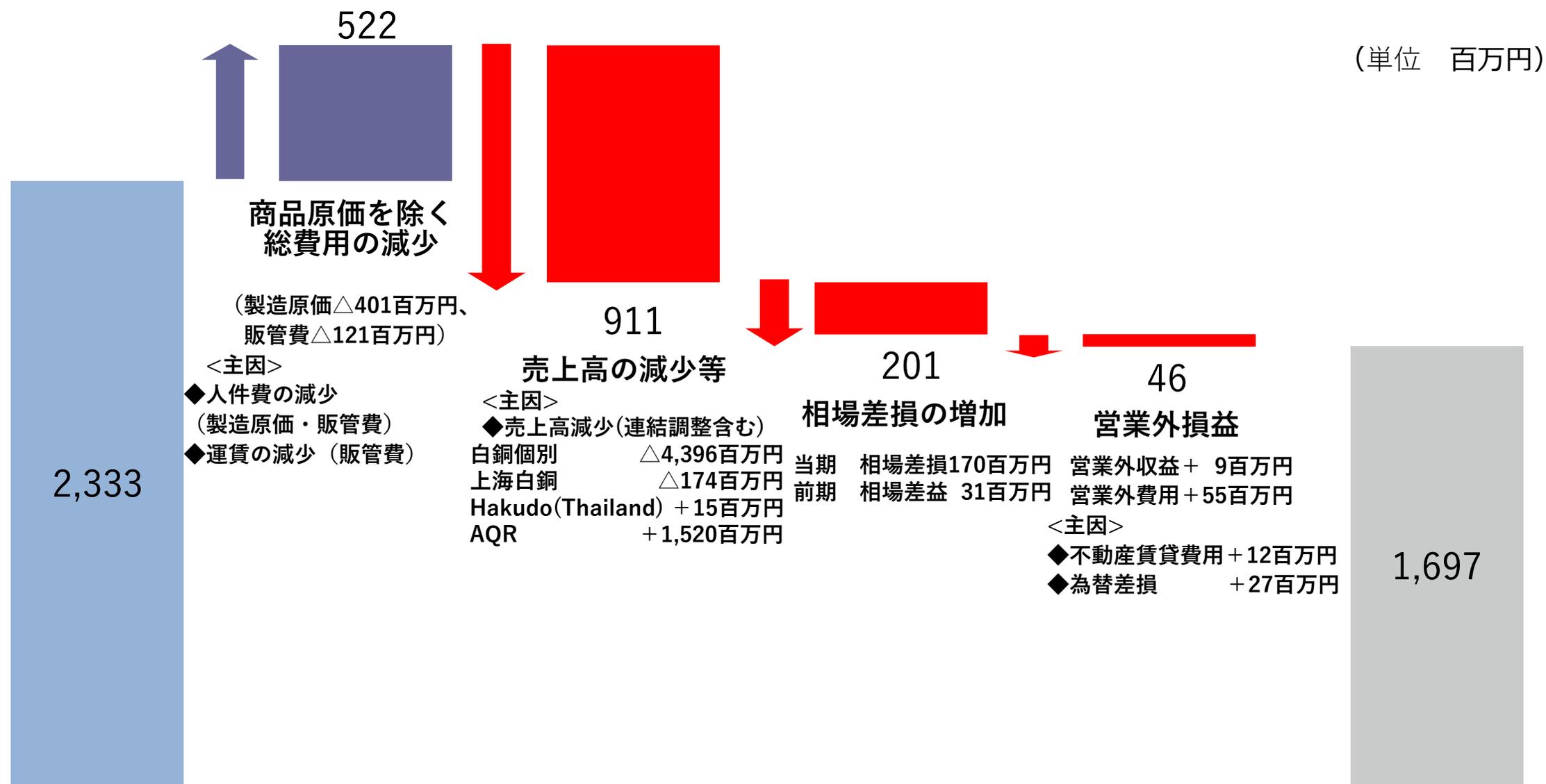
主力のアルミニウム製品を含め全般的に売上高が減少

（単位 百万円）



3. 【連結】損益の状況 経常利益差異要因

売上高の減少と原材料市況の影響により減益



2019年3月期

2020年3月期



増加要因



減少要因

※ AQR株式会社 (旧高瀬アルミ) は2020年3月期から損益計算書の連結対象となっております。

あたらしい、を、素材から。



4. 【連結】貸借対照表

<貸借対照表(前連結会計年度末比)>

単位：百万円

資産の部	2019年3月末	2020年3月末	増減	負債及び純資産の部	2019年3月末	2020年3月末	増減
流動資産	25,343	23,695	△ 1,648	流動負債	16,630	14,945	△ 1,684
現金及び預金	6,087	4,968	△ 1,119	支払手形及び買掛金 (含 電子記録債務)	14,428	13,509	△ 918
受取手形及び売掛金 (含 電子記録債権)	13,330	12,532	△ 798	1年以内返済予定の 長期借入金	357	—	△ 357
棚卸資産	5,865	6,076	211	未払金・未払費用	939	730	△ 209
その他流動資産	58	116	57	未払法人税等	372	210	△ 161
固定資産	8,273	8,375	102	固定負債	57	44	△ 13
有形固定資産	6,835	6,608	△ 226	負債合計	16,688	14,989	△ 1,698
無形固定資産	406	412	5	純資産	16,928	17,081	153
投資その他の資産	1,031	1,354	323				
資産合計	33,616	32,071	△ 1,545	負債及び純資産合計	33,616	32,071	△ 1,545

■ 主要項目の増減要因分析

①流動資産 23,695百万円（前連結会計年度末比 1,648百万円減少）

- ・ベトナム企業への出資、AQRの長期借入金返済による現預金の減少
- ・売上高が減少したことによる受取手形及び売掛金の減少

②固定資産 8,375百万円（前連結会計年度末比 102百万円増加）

- ・減価償却による有形固定資産の減少226百万円
- ・無形固定資産の増加5百万円
- ・投資その他の資産の増加323百万円（ベトナム企業への出資等）

③流動負債 14,945百万円（前連結会計年度末比 1,684百万円減少）

- ・仕入高減少による支払手形及び買掛金の減少
- ・AQR（旧高瀬アルミ）の長期借入金返済

④純資産 17,081百万円（前連結会計年度末比 153百万円増加）

5. 【連結】 キャッシュ・フロー

減益による営業CFの減少と投資CF・財務CFの支出増加により前期末比で現金は減少

(単位：百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	差額
営業活動による キャッシュ・フロー	2,073	1,503	△570
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,027	△1,367	△340
財務活動による キャッシュ・フロー	△850	△1,230	△380
現金及び現金同等物 に係る換算差額	△10	△24	△14
現金及び現金同等物 の期末残高	6,087	4,968	△1,119

主な内訳

①営業活動によるキャッシュ・フロー

1,503百万円

- ・税金等調整前当期純利益 : 1,697百万円
- ・減価償却費 : 892百万円
- ・売上債権の増減額 (△は増加) : 779百万円
- ・たな卸資産の増減額 (△は増加) : △225百万円
- ・仕入債務の増減額 (△は減少) : △916百万円
- ・法人税等の支払額 : △715百万円

②投資活動によるキャッシュ・フロー

△1,367百万円

- ・有形固定資産の取得に伴う支出 : △820百万円
- ・無形固定資産の取得に伴う支出 : △104百万円
- ・ベトナムへの出資金 : △411百万円

③財務活動によるキャッシュ・フロー

△1,230百万円

- ・借入金返済による減少 : △357百万円
- ・配当金支払による減少 : △873百万円

6. 2020年3月期のトピック

<ベトナムの大手非鉄金属商社オリスター社 に対する出資決定について>

1. 概要

当社のベトナムにおける提携代理店として2013年から親密な関係を築いている現地大手非鉄金属商社であるOristar Corporation が更なる事業拡大を図る為、資金調達を行うに当たり、同社が行う普通株式と優先株（合算して約20%）の第三者割当増資を引き受けるもの

2. 目的

同社との資本関係を通して、当社の製造技術、販売管理、マーケティングノウハウ等を供与することで、同社の優良顧客基盤に対して、より高度な加工サービスを含めた差別化の図れる商品・サービスを提供し、ベトナムにおいて更なる事業規模の拡大を図るため

<事業譲受について>

1. 概要

東港金属株式会社（東京都大田区京浜島）東北支店が営んでいる非鉄金属の販売事業の譲受

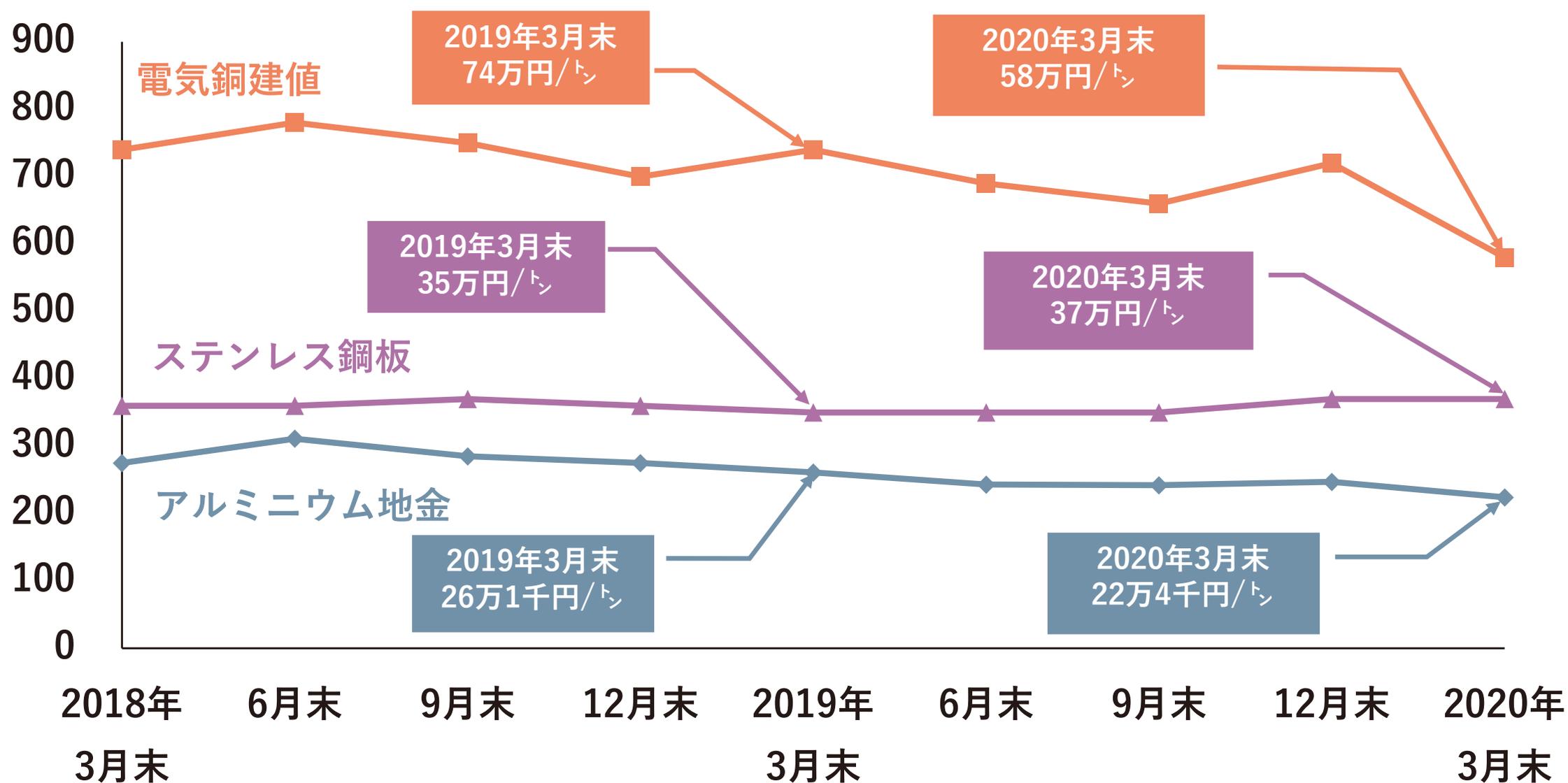
2. 目的

同社の優良顧客に対して、当社の豊富な品揃え商品や高品質な切断・加工サービスなど充実したサービスを提供し、また、白銅ネットサービス等をご利用いただくなどお客様のメリットにつなげることで、当社の事業規模の拡大を図るため

7. 事業環境（1） アルミニウム・銅・ステンレスの原材料市況

主力商品のアルミニウム・銅の地金価格が下落

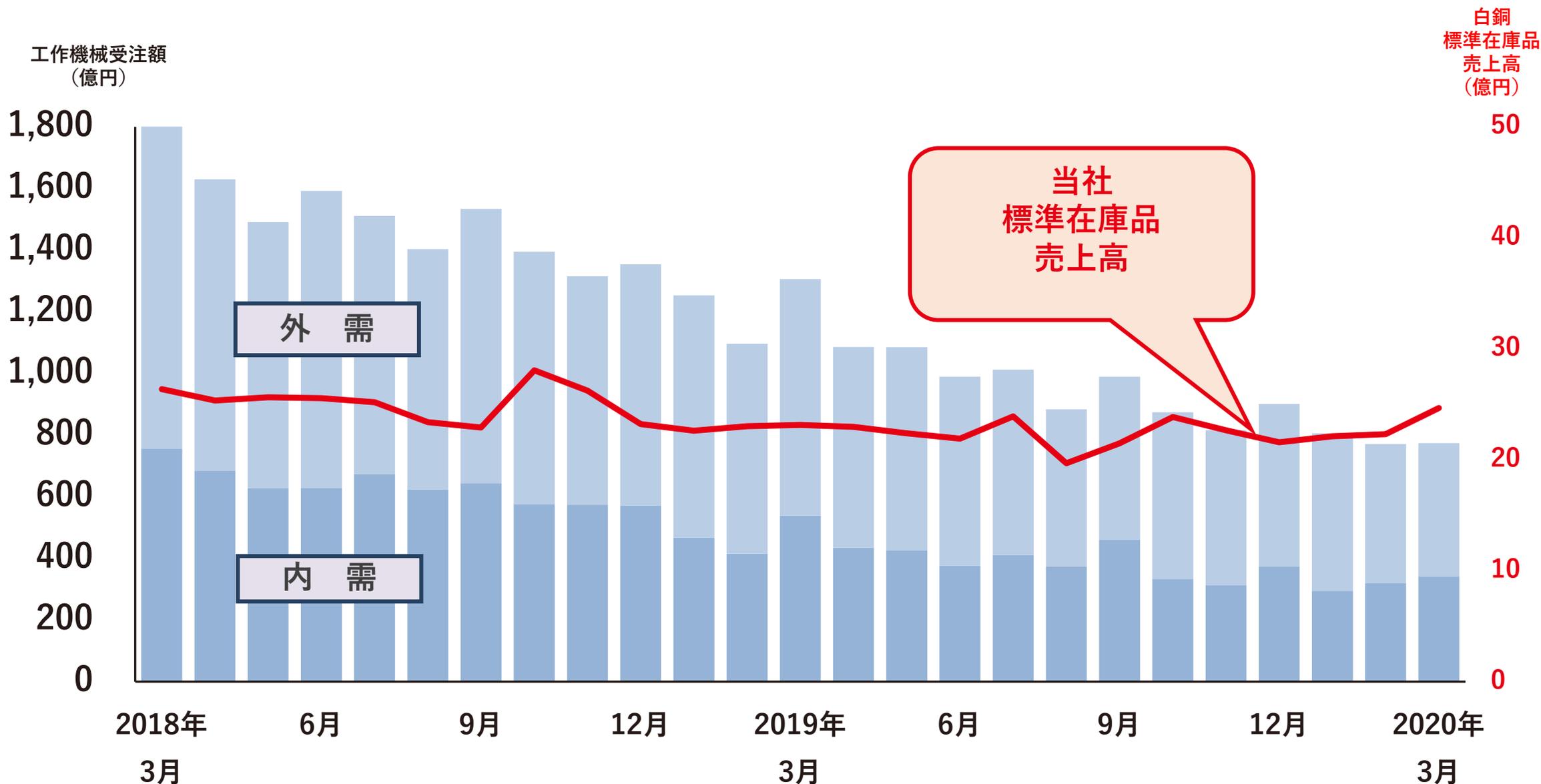
(単位：千円/トン)



ステンレス鋼板：鉄鋼新聞月別中心値
アルミニウム地金：日本経済新聞月別平均値

7. 事業環境（2） 工作機械受注額と当社標準在庫品売上高との比較

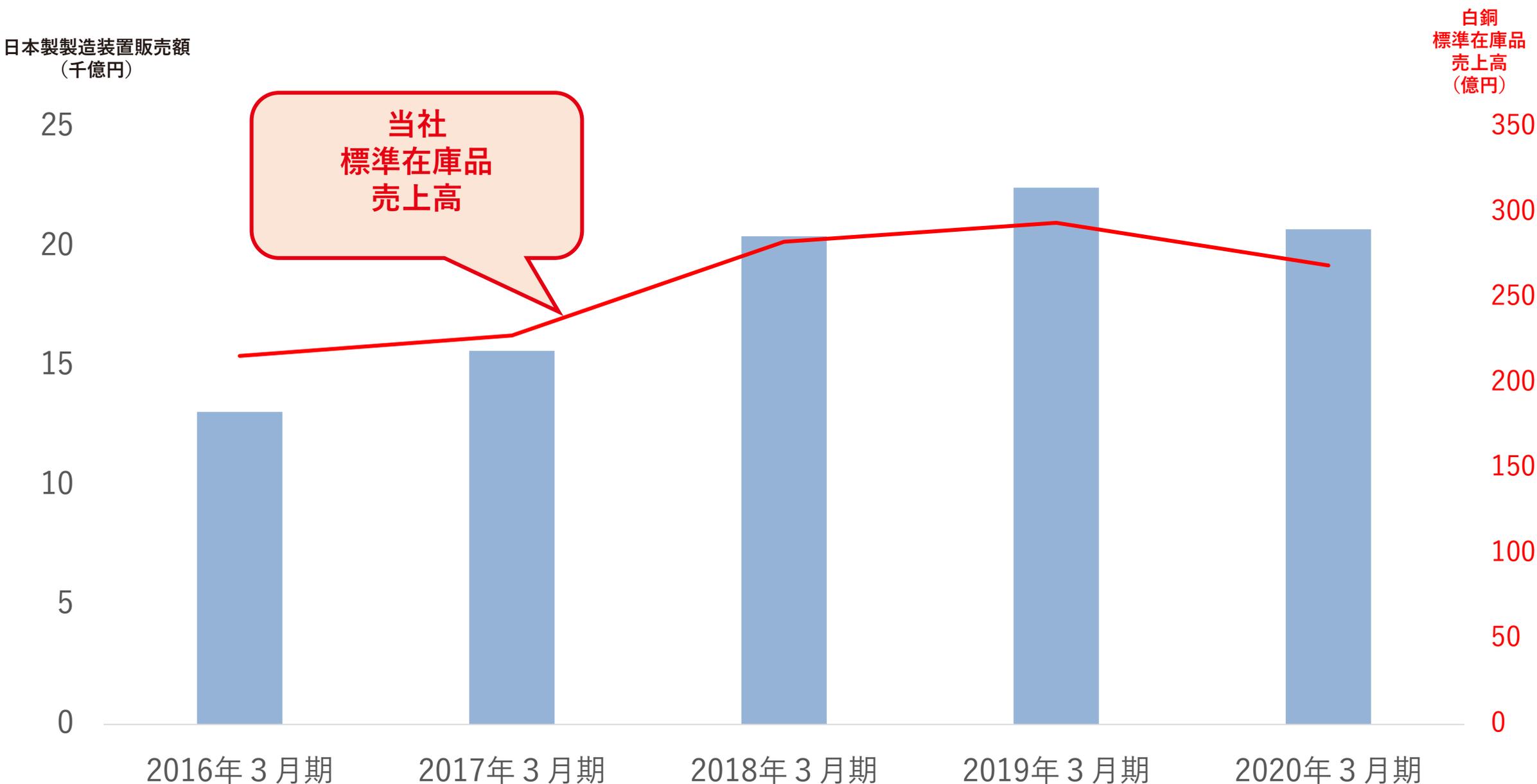
工作機械受注額は外需・内需ともに継続して下落



出典：日本工作機械販売協会 工作機械受注統計

7. 事業環境（3）半導体製造装置販売額と当社標準在庫品売上高との比較

2020年3月期は前期と比較し下落



出典：日本半導体製造装置協会 統計データ

8. 対処すべき課題と進捗（1）－1

(1)ダントツの品質・ダントツのスピード・ダントツのサービス・納得の価格の実現

(1)-1 ロボットなど、省人・省力化生産設備の積極投入、製造現場のIoT推進による製造現場の革新

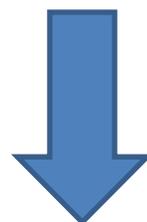
【過去の投資実績と今期の予定】

固定資産取得額(連結)

(単位：百万円)

2012年 3月期	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期 (予定)
102	295	599	857	683	1,342	1,311	1,300	705	877

設備投資の効果により、当社工場の生産能力は
2014年3月期と比較し1.3～1.8倍に増強した



【製造関連の返品発生件数率】

直近3年で発生件数率が最も高かった2018年3月期上半期と比較し2020年3月期下半期は約1/4に減少

【納期繰延発生率（カタログ納期より遅延した件数率）】

直近3年で発生件数率が最も高かった2017年3月期下半期と比較し2020年3月期下半期は約1/15に減少

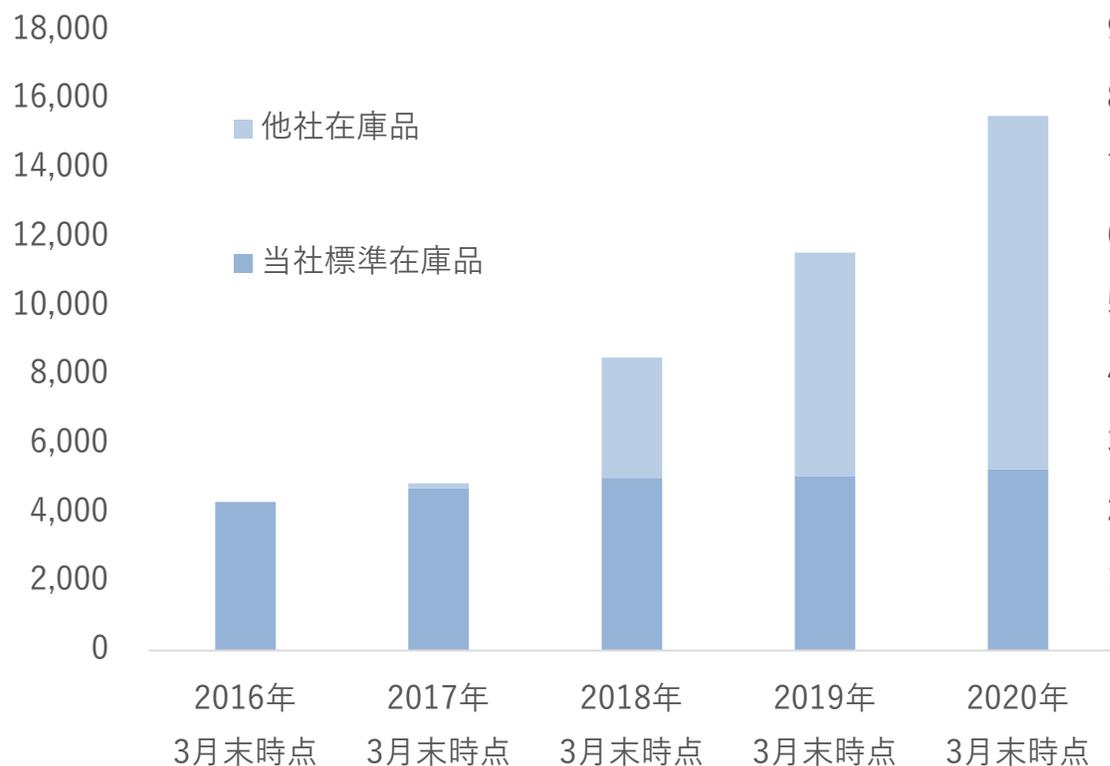
8. 対処すべき課題と進捗（1）－2

(1)ダントツの品質・ダントツのスピード・ダントツのサービス・納得の価格の実現

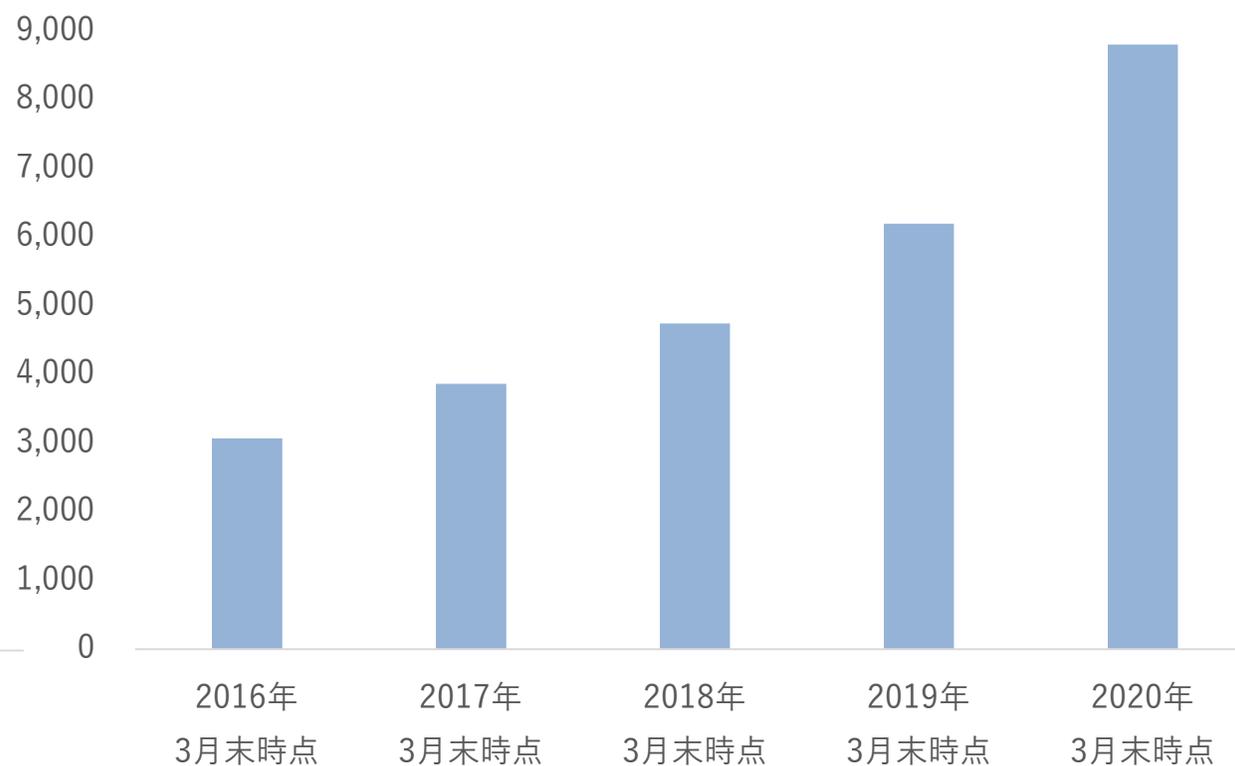
(1)-2「白銅ネットサービス」の更なる利便性の向上

- ・品目サイズを大幅拡充、当社標準在庫品と他社在庫品合わせて15,500品目サイズがご利用可能
- ・2021年3月末までにお見積りの「白銅ネットサービス」利用率90%を目指す(現状、約72%)

【白銅ネットサービス ご利用可能アイテム数】



【白銅ネットサービスご利用登録社数推移（累計）】



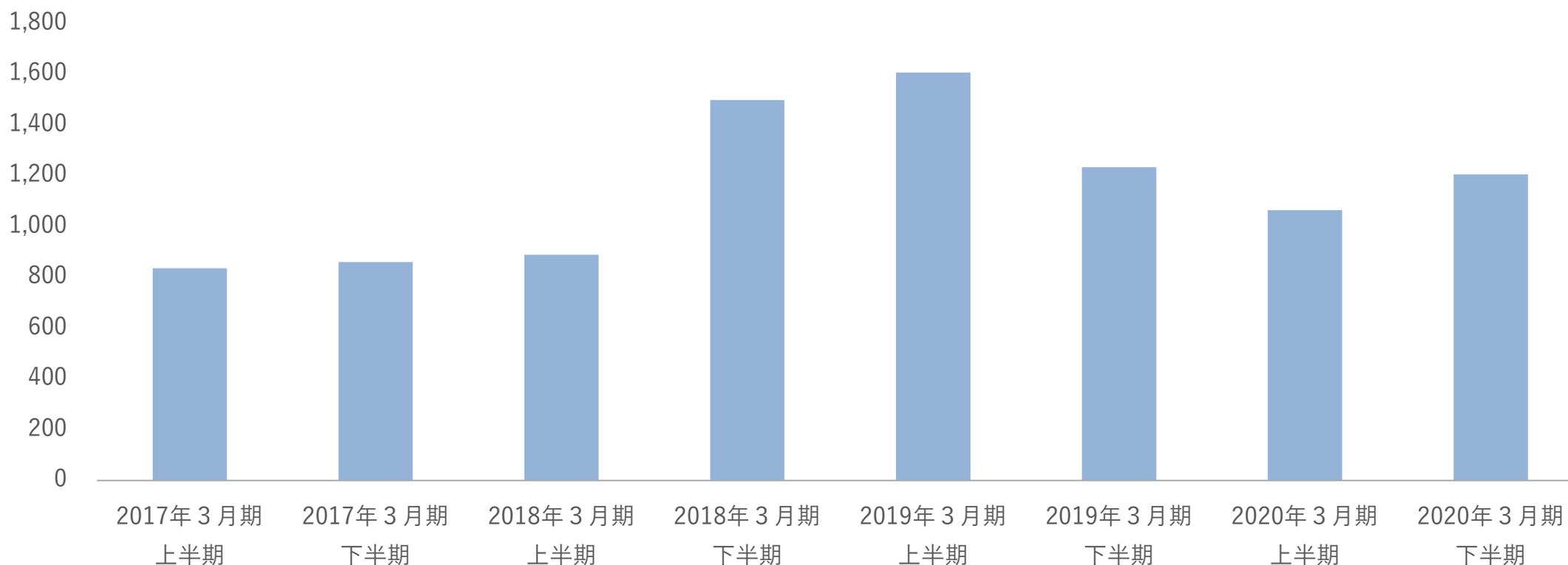
8. 対処すべき課題と進捗（2）

(2) 海外事業の拡大

- ◆ 海外子会社の売上高および利益の増大
- ◆ 出資予定のベトナム大手非鉄金属商社であるオリスター社との協業体制の構築
- ◆ アジア全域への非鉄・ステンレスのオーダーメイドプレート販売網の確立
- ◆ 海外代理店との連携強化
- ◆ 海外でのWeb販売の強化

【海外事業の売上高※推移】

(単位 百万円)



※日本から海外子会社以外への輸出売上高と海外子会社の売上高の合計金額

8. 対処すべき課題と進捗 (3) - 1

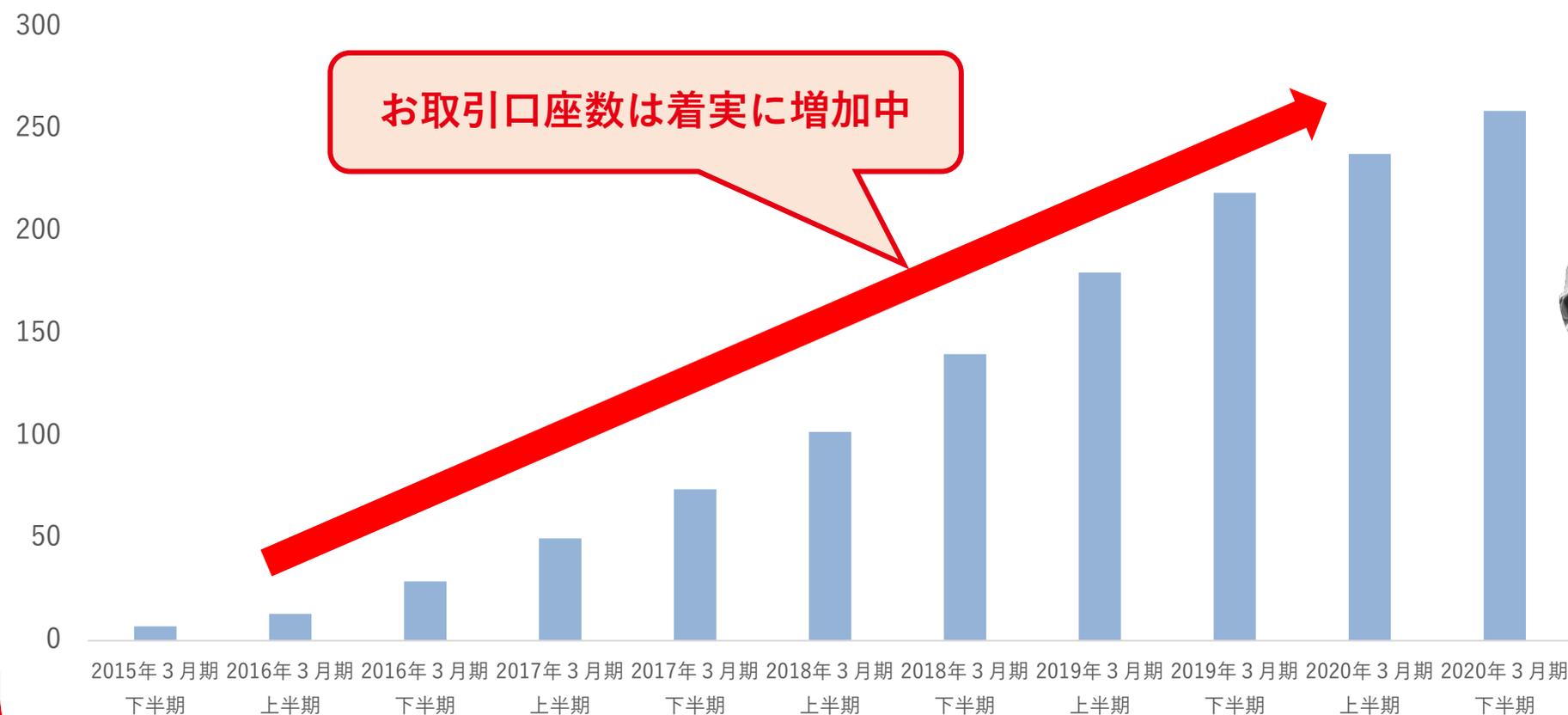
(3) 新規事業の育成

(3)-1 3Dプリンターによる金属製品の受託製造

- ・アルミダイカスト合金「ADC12」の造形サービスの販売強化
- ・3D造形に関するトータルソリューション「3D+ONE」
- ・検査設備増強による検査体制の強化
- ・3Dプリンターの相乗効果を狙った金型・自動車業界への拡販



【3Dプリンター関連口座数 (累計)】



- 取り扱い金属の種類
- ① マルエージング鋼
 - ② ステンレス鋼 (SUS630)
 - ③ アルミニウム (AlSi12)
 - ④ アルミニウム (ADC12)

画像提供：3D Systems Corporation

8. 対処すべき課題と進捗（3） - 2

(3) 新規事業の育成

(3)-2 航空宇宙規格材料のコンビニエンスディーラーを目指す

業界最大級の
豊富な在庫ラインアップ

航空機の構造材、各種の装備品
や人工衛星部品などに使用され
る材料を豊富なサイズラインア
ップで品揃え

規格に合致した品質確保

JIS Q 9100(航空宇宙)を取得
神奈川工場・滋賀工場



海外からの輸入にも対応

海外との幅広いネットワークを使
って、輸入にも迅速に対応いた
します。

2020年1月にウォータージェットを新規導入、航空宇宙業界を中心に販売展開する



あらゆる材質を任意の形状に切断加工

9. 2021年3月期【連結】業績予想

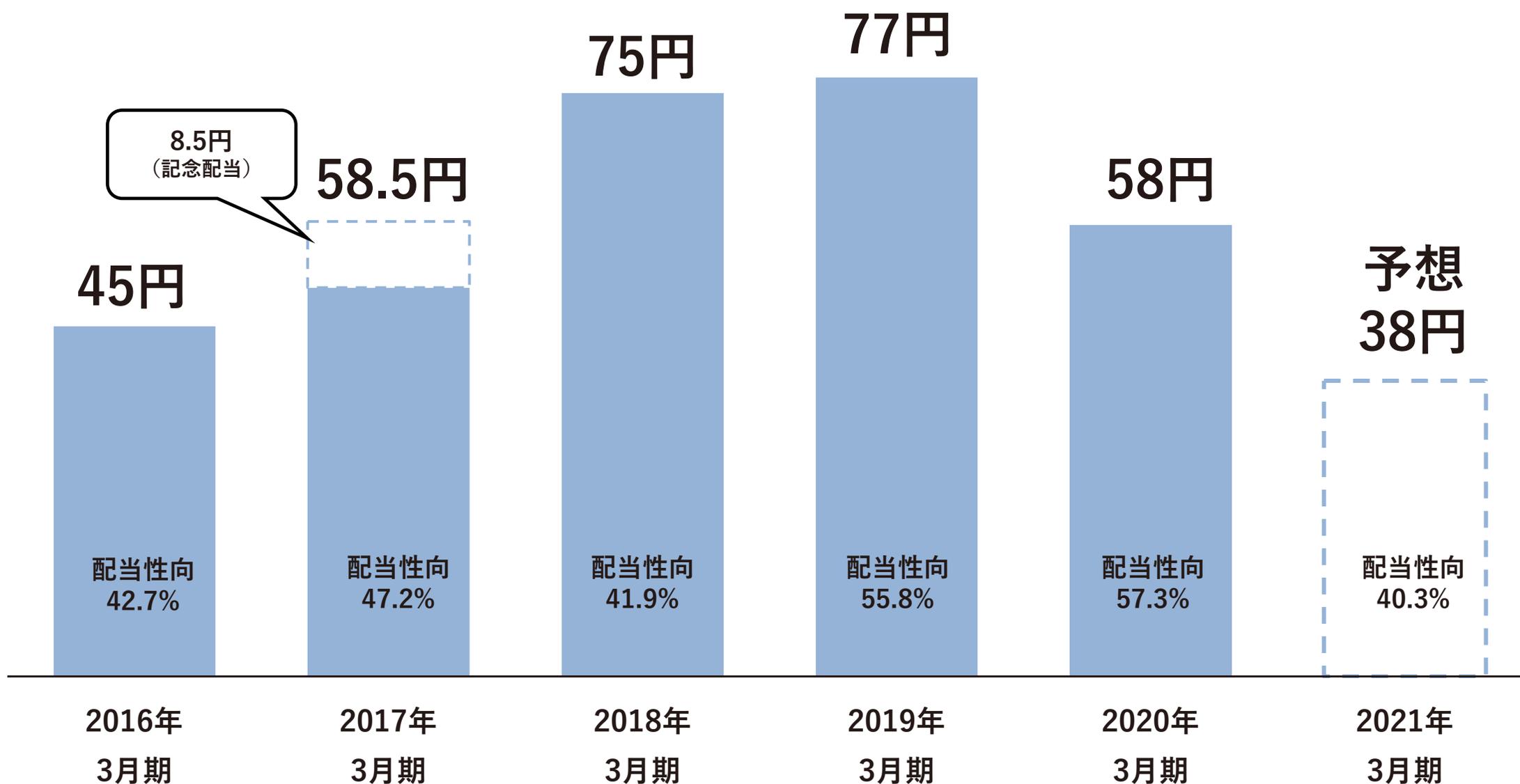
(単位：百万円)

	2020年3月期 (実績)	2021年3月期 通期 (予想) ※	前連結会計年度比 増減額	同増減率
売上高	41,798	39,000	△2,798	△6.7%
営業利益	1,658	1,500	△158	△9.6%
経常利益	1,697	1,560	△137	△8.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,148	1,070	△78	△6.8%

※2020年5月13日発表数字

10. 株主還元 1株当たり配当金の推移

2020年3月期は業績下方修正あるも期初発表配当額（58円）を維持



1 1. 新型コロナウイルスの弊社事業に対する影響

◆業績と配当予想

- ・ 影響が長期化する懸念があることから、見通しが困難なため、今後修正する可能性がございます

◆財務への影響

- ・ 売上高の減少は予想されるものの現状保有現預金と銀行借入枠合わせ月商の約3カ月分を保有しており現状懸念すべき事項はございません

◆受注体制

- ・ 時差出勤・在宅勤務による少人数での対応
(24時間365日お見積り・ご注文可能な白銅ネットサービスの推進)

◆生産体制

- ・ 上海現法を含め工場は通常どおり稼働

◆事業所対応

- ・ お客様センターを含み全拠点を対象に可能な範囲で在宅勤務を実施

ご視聴ありがとうございました。

■本資料における注意事項

この資料には、2020年5月現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

■お問合せ先：白銅株式会社 経営企画本部長 關濱 亮

ホームページ：<https://www.hakudo.co.jp/>

メールアドレス：001002@hakudo.co.jp